

■ 評価結果 ■

使用評価ソフト: CASBEE Nagoya 2016(v3.0)

= BEE_{0.9}

★:S:★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★★ B':★★★★★

100 S 3.0 1.5 BEE=1.0 A B⁺ B⁻ 50 42 0.9 0.5 C 0 50 100

☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ オフサイト手法

0 46

0 %

CO₂/㎡・年

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO₂ 排出量の目安で示したものです

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源

LR3 敷地外環境

30%

Q 環境品質 **Q のスコア= 2.6**

Q1 室内環境 **Q1のスコア=**

項目	スコア
音環境	3.9
温熱環境	2.8
光・視環境	2.5
空気質	3.1

Q2 サービス性能 **Q2のスコア=2.5**

項目	スコア
機能性	1.9
耐用性	2.9
対応性	2.9

Q3 室外環境（敷地内） **Q3のスコア=2.4**

項目	スコア
生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.0

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア= 3.1**

LR1 エネルギー **LR1のスコア=4**

項目	スコア
建物外皮の	4.0
自然エネ	2.0
設備シス	3.6
効率性	3.0

LR2 資源・マテリアル **LR2のスコア= 3.1**

項目	スコア
水資源	3.4
非再生材料の	2.6
汚染物質	4.3

LR3 敷地外環境 **LR3のスコア=2.7**

項目	スコア
地球温暖化	3.0
地域環境	3.0
周辺環境	2.3

総合		その他
個を大切にできるプライベート空間の創出。 一人ひとりの「快適」をかなえる社員寮。		工事中の環境パトロールの実施。 低騒音・低振動重機の採用。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
計画建物が鉄道に近接している為、遮音性能に特に配慮した。	給排水配管において更新必要間隔の長い配管を使用し、維持管理のしやすい設計とした。 メンテナンス、更新を重視した設備計画とした。	緑地を多く確保し、植栽により良好な景観を形成している。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
断熱等性能等級における等級4相当を達成。 LED照明、高効率設備の採用により環境負荷へ配慮をした。	環境にやさしい断熱材を採用した。 躯体+軽鉄+仕上材のディテールを採用した。	十分な数の駐車場と駐輪場を設置。 光害の抑制に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

重点項目スコア・結果シート

三井化学名古屋工場新寮建設NR-2棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.3
LR1	エネルギー	3.4	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	有	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.3



2. 自然共生

評価点 = 1.9



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。